

建築設計業務の不採算性のメカニズム (紛争予防のために)

松本光平

1. 言語 / 記号

記号は、実際には複雑多様な物事をひとまとめにして、表すことにより、物事を理解したり、記録したり、それを人に伝えたりすることができる。

しかし、記号は、物事そのものではない。記号により記録し伝えるものは「情報」と呼ばれる。注意すべきは、記号は、情報を完全には記録し伝えることはできないことである。

「一見は百聞にしかず」という諺はこれを指している。

2. 設計業務 (情報の生産)

設計は、設計図書を作成する業務である。

設計図書の記載内容は、「記号」の集まりである。建築物そのものではない。建築物を造るための「指図」(指示)の内容を表す情報(記号)が記載されている。

設計図書は、(指図情報を載せた)媒体にすぎない。

3. 情報 (経済的特徴)

情報は、経済的財である。正しい情報は価値のある財である。情報を創り出すことは、生産活動である。これにより報酬を受けることは当然である。

しかし、情報は、通常の財・サービスには見られない特殊な性質を持っている。

- 【1】複製費用 0 : 数多く作るのに費用が増加しない(媒体コストあり)
- 【2】取引の不可逆性 : 相手に渡すと取り戻せない。事前に確かめられない
- 【3】分割不可能 : 分割すると意味が無くなる。 部品化困難
- 【4】同じ情報は無価値 : 一度知れば十分。「二度知る」ことは無価値
- 【5】生産、消費の不確実性が大 : 考えても思い付かない、知っても役立たないことがある(下手な考え休むに似たり。住んでみたら住み難い)
- 【6】正しい情報は社会的貢献大 : 情報は個人だけでなく、他の人さらには社会に役立つ

4. 設計業務の不採算性

この特徴から、設計業務又はその契約において起こる多くの現象が説明できる。

現象	原因	説明
・デザイン盗用が容易	1	
・信頼を前提とする取引	2	(契約は解除されたが、設計は取られる)
・設計変更は無報酬	1、3	(変更の業務コストが注文主には見えない)
・新奇性、創造性の競争	4	(コピーには価値がない)
・価格評価困難	2、3、5	(競争的価格決定は不合理)
・創造的・設計開発のリスク大	5	(努力しても成果が上がるとは限らない)
・開発・研究意欲の減退	1、5	(施工会社、大組織等に人材が集まる)

これに加えて、我が国においては、専門家の役務報酬を過小評価する傾向が根強く存在し、しかも現状では一部を除いて買い手市場なので、設計業務は、しばしば不採算に陥る。

個人の努力のみでは解決は容易でない。業界全体で対策を考えることが有効である。